



市制施行110周年記念事業 協賛イベントを募集します

企業や各種団体などが実施するイベントで、市制施行110周年を祝い、広くPRできるもので、多くの市民が参加できる「協賛イベント」を募集します。

- 対象期間／4月1日～平成30年3月31日
- 対象事業／市制施行110周年を祝い、多くの市民が参加でき、次の全てに該当するイベント

- ①市制施行110周年記念事業の基本方針に合致するもの
- ②特定の個人を対象としていないもの
- ③政治団体もしくは宗教団体のための活動でないもの
- ④公序良俗に反しないもの

■協賛内容／

- ①「福島市制施行110周年記念協賛イベント」の名義使用
- ②ロゴマークとメインテーマの使用
- ③市ホームページに掲載

※財政的支援は行いません。

■申し込み方法／平成30年1月31日まで(必着)、申請書(市ホームページから取得可)に必要事項を明記の上、郵送か持参

■問／総務企画課 ☎525-3708

(〒960-8601 五老内町3-1)



Instagramに投稿された、皆さんが見つけた「わくわくな福島市」の写真たちです

あなたにとってのわくわくな福島市

ハッシュタグは「#wakufuku」



市制施行110周年記念式典を開催

これまでのさまざまな復興への支援に感謝の気持ちを持ち、歴史や先人たちが培った魅力を再認識しながら、希望ある復興を成し遂げ新たな「ふくしま」のさらなる飛躍を誓うため、記念式典を開催します。皆さんで110周年をお祝いしましょう！

- とき／7月8日(土)午前10時～正午
- ところ／国体記念体育館
- 内容／110周年記念表彰、詩の朗読や市内小中学生の合唱披露などのアトラクション
- 問／総務企画課 ☎525-3708



今後もさまざまな
110周年記念事業イベントを
開催予定です。
お楽しみに!!



わたしのふくしま これからのふくしま

110周年の節目を迎える福島市。
これから福島市がどんなまちに
なってもらいたいかなど、市民の
方にお話を伺いました。

エアレース・パイロット 室屋 義秀さん

10年後、「ふくしま」の名は、どん底からの奇跡的な復興を果たした、勇者たちの住む伝説の地になっていると思います。福島県全域で航空宇宙産業の振興を進めているのは周知の事実ですが、その起爆剤として、今年からふくしまスカイパークでの国産小型機の開発プロジェクトがスタートします。半世紀ぶりのプロジェクトを成功させるために、愛知県の企業が進出してきました。このようにさまざまなプロジェクトが産声を上げている現在、これらの夢あふれる新機

軸を担う人材の育成はふくしまの使命です。そんな未来の実現に向けて、私たちは得意とするスカイスポーツ分野から、多くの人に興味を持ってもらい、さらにその中から次世代を担う航空人を育成するプロジェクトを開始します。このプロジェクトを推進するための、専用の学習施設となる展示場もふくしまスカイパークに今年秋に誕生します。10年後には、世界を鳥瞰できる人材が、幅広く活躍していることでしょう。



(c)Taro Imahara / PATHFINDER

2017ミス・ユニバース・ジャパン福島代表

小林 愛さん

私は福島が大好きです。しかし、その愛する福島が震災後、世界に悲しいイメージで伝わっていることを海外でのボランティア活動を通して感じました。また、国内でも福島を悲劇の地として認識されていることに悲しさを覚え、少しでも本当の元気な福島を伝えたいと思い、ミススピーチキャンペーンクルーとして活動してきました。国内のさまざまな場所で福島産のくだものPRを行い、消費者や市場の皆さんに直接魅力をお伝えしてきました。その活動を通して福島を応援してくれる方々、愛してくれている方々が大変多いことを知りました。

2017ミス・ユニバース・ジャパン福島大会に応募しました。私が6年間この目で見てきた復興へと向かう福島の魅力、そして今の明るい福島をミス・ユニバース福島代表として世界中へ発信していきたいです。この先福島が全世界から愛される地になることを心から願っています。



福島大学国際交流センター 副センター長

マクマイケル・ウィリアムさん

カナダから福島へ2007年に移住をし、今では自他ともに認める「福島の大ファン」として、世界に福島を発信する数多くの取り組みに関わらせていただいています。私が思う福島の魅力は、素晴らしい日本の原風景や、世界トップクラスの食材など「生活の中で気付けられる豊かさ」であったり、他人を思いやる心の温かさや、災害にも負けない地域の団結力など、震災を機に改めて気付かされた「福島らしさ」、「頼もしさ」であっ

たりします。このような福島の魅力は、一見ありふれたものだと感じる方もいらっしゃるかも知れませんが、私は世界中を探してもなかなか見つからないと確信しています。今後も一人でも多く海外出身の福島の大ファンを生み出せるよう、10年後も変わらず国内外の人たちに、世界に誇りたい福島の魅力を知ってもらえる機会を生み続けていきたいと思っています。



廣野 諒さん・廣野 あみさん

廣野諒さん(写真右)：震災当時、小学校の通学路である飯野町の国道114号を復興支援に携わる車両がたくさん通行していました。自分も何かできないかと考え、福島のためにがんばっている多くの方々に応援して、感謝の気持ちを伝えようと、「がんばれファイト!」「いつもありがとう」と書いた手作りの看板を持って歩道に立っていました。復興支援に携わる方々の一生懸命な姿は、とてもかっこよくて、自分も人の役に立てるような人間になりたいと思いました。福島市のくだものがおいしくて、自然豊かなところが好きです。福島市のために「市民だからこそできること」をこれからも行っていきたいです。

廣野あみさん(写真左)：復興支援に携わる方に感謝の気持ちを伝え始めたのは、県外などの遠くから、大切な家族と離れて福島のためにがんばってくださっていると知ってからです。応援・感謝したいけど行動できない人もいっぱいいると思うので、行動できる自分たちが精一杯伝えようと、3年間ほど毎朝学校に行く前に活動していました。私も、人のため、福島のため、誰かに感謝されるようなことをしていきたいです。



福島市は自慢できる良いところがたくさんあるので、全国、世界にもっと伝わって、多くの方に福島市に来てほしいです。